BEST AVAILABLE COPY

⑩日本国特許庁(JP)

@公開特許公報(A)

平2-311498

®Int. Cl. 3

識別記号

庁内整理番号

母公開 平成2年(1990)12月27日

C 07 K 13/00 C 12 N

ZNA

8619-4H

6807-4B

C 12 N 15/00

A·X

審査請求 未請求 請求項の数 5 (全15頁)

G)発明の名称

機能性ポリペプチド

頤 平1-131453 の特

平1(1989)5月26日 29出

個発

起

滋賀県大津市瀬田3丁目4番1号 實酒造株式会社中央研

究所内

@発 大 館 洋

滋賀県大津市瀬田3丁目4番1号 寶酒造株式会社中央研

究所内

Ж

媋 鄅 究所内

の発

滋賀県大津市瀬田3丁目4番1号 寶酒造株式会社中央研

究所内

寶酒 造株式 会社

京都府京都市伏見区竹中町609番地

79代 理 人 弁理士 中本 宏 外2名

最終頁に続く

明

1. 発明の名称

機能性ポリペプチド

2. 特許請求の範囲

1. ヒトフイプロネクチンの細胞接着ドメイン と、ヘパリン結合ドメインが、直接又はリン カーペプチドを介して結合していることを特 強とする機能性ポリペプチド。

下記一般式!:

Can + Net - Kan - X ... (1) [式中[11は、ヒトフイブロネクチンの細胞 接着ドメインのPro!329-Ser'313 に相当する 277 アミノ酸ペプチド残器を示し、下記式 **1** :

Pro The Asp Leu Arg Phe The Asn ile Gly Pro Asp Thr Het Arg Val Thr Trp Ala Pro Pro Pro Ser lie Asp Leu Thr Asa Phe Leu Val Arg Tyr Ser Pro Val Lys Asa Glu Glu Asp Val Ala Glu Lou Ser lie Ser Pro Ser Asp Aso Ala Val Val Lou Thr Aso Leu Leu Pro Gly The Glu Tyr Yal Val Ser Val Ser Ser Val Tyr Glu Gln His Glu Ser Thr Pro Leu Arg Gly Arg Gln Lys Thr Gly Leu Asp. Ser Pro Thr Gly 11e Asp Phe Ser Asp 11e The Ala Ass Ser Phe The Val His Trp lle Ala Pro Arg Ala Thr ile The Gly Tyr Acg lle Arg Ris His Pro Glu His Phe Ser Gly . Arg Pro Arg Giu Asp Arg Val Pro His Ser Ars Asn Ser lie Thr Leu Thr Asa Lou Thr Pro 61y Thr Glu Tyr Val Val Ser lie Val Ala Leu Asn Gly Arg Glu Glu Ser Pro Leu Leu lie Gly Gin Gin Ser Thr Val Ser Asp Val Pro Arg Asp Lau Glu Val Val Ala Ala The Pro The See Leu Leu Ile See Tre Asp Ala Pro Ala Val The Val Arg Tyr Tyr Arg lie Thr Tyr Gly Glu Thr Gly Gly Asn Ser Pro Val Gin Glu Phe Thr Val Pro Gly Ser Lys Ser The Ala The lie Ser Gly Leu Lys Pro Gly Val Asp Tyr Thr lie Thr Val Tyr Ala Val Thr Gly Arg Gly Asp Ser Pro Ala

特開平2-311498 (2)

Ser Ser Lys Pro 11e Ser 11e Asn Tyr Arg Thr Glu 11e Asp Lys Pro Ser --- 〔1〕 で表される配列を有し、11。、、はヒトフイプロ ネクチンのヘパリン結合ドメインのAla' ***-Thr'**** に相当する 271 アミノ酸ペプチド既 基を示し、下記式皿:

Ala 11e Pro Aia Pro Thr Asp Leu Lys Phe
Thr Gla Vai Thr Pro Thr Ser Leu Ser Ala
Gla Trp Thr Pro Pro Asa Vai Gla Leu Thr
Gly Tyr Arg Vai Arg Vai Thr Pro Lys Gla
Lys Thr Gly Pro Met Lys Gla 11e Asa Leu
Ala Pro Asp Ser Ser Ser Vai Vai Vai Ser
Gly Leu Met Vai Ala Thr Lys Tyr Gla Vai
Ser Vai Tyr Ala Leu Lys Asp Thr Leu Thr
Ser Arg Pro Ala Gla Gly Vai Vai Thr Thr
Leu Gla Asa Vai Ser Pro Pro Arg Arg Ala
Arg Vai Thr Asp Ala Thr Glu Thr Thr
lie Thr Gly Phe Gla Vai Asp Ala Vai Pro
Ala Asa Gly Gla Thr Pro lie Gla Arg Thr

Ile Lys Pro Asp Val Arg Ser Tyr Thr Ile
Thr Gly Leu Gln Pro Gly Thr Asp Tyr Lys
ile Tyr Leu Tyr Thr Leu Asn Asp Asn Ala
Arg Ser Ser Pro Val Val Ile Asp Ala Ser
Thr Ala Ile Asp Ala Pro Ser Asn Leu Arg
Phe Lou Ala Thr Thr Pro Asn Ser Leu Leu
Val Ser Trp Gln Pro Pro Arg Ala Arg Ile
Thr Gly Tyr Ile Ile Lys Tyr Glu Lys Pro
Gly Ser Pro Pro Arg Glu Val Val Pro Arg
Pro Arg Pro Gly Val Thr Glu Ala Thr Ile
Thr Gly Leu Glu Pro Gly Thr Glu Tyr Thr
Ile Tyr Val Ile Ala Leu Lys Asn Asn Gin
Lys Ser Glu Pro Leu Ile Gly Arg Lys Lys

Thr

で表される配列を有し、Xは下記式IV:
Asp-Glu-Leu-Pro-Gln-Leu-Val-Thr-Leu-Pro-His-Pro-Asn-Leu-His-Gly-Pro-Glu-He-Leu-Asp-Val-Pro-Ser-Thr (IV)
で表されるペプチド疫基、あるいはその一部
又は全部が欠失した基を示し、Net はメチオ

ニン残器を示し、nは1又は零の数を示す〕 で表されることを特徴とする機能性ポリペプ チド。

- 3. 請求項1記載の機能性ポリペプチドをコードするDNAを含有せしめた組換え体プラスミド。
- 4. 請求項3記載の組換え体プラスミドを導入せしめた形質転換体。
- 5. 請求項4記載の形質転換体を培養し、該培養物より請求項1記載の機能性ポリペプチドを提取することを特徴とする機能性ポリペプチドの製造方法。

3. 発明の詳細な説明

[産業上の利用分野]

本発明は、新規ポリベブチドに関し、更に詳しくヒトフィブロネクチンの細胞接着ドメインベブチドと、ヘパリン結合ドメインベブチドとを含有する新規な機能性ポリベブチド及びその製造方法に関する。

〔従来の技術]

[発明が解決しようとする課題]

F Nにはヘパリンに結合する領域(ヘパリン結合ドメイン)が 2 ケ所存在し、 1 ケ所は N末畑付近にあり、結合に Caイオンが必要であることが知られている。 もう一方の領域は C 末畑付近にあり、この領域のヘパリンに対する結合話

符開平2-311498 (3)

性は、前述の領域よりも強く、しかも Caイオン に影響されない。

本発明の目的は、FNの細胞接着活性とヘバリン結合活性の両機能を併せ持つ、新規な機能性ポリペプチド、及びその有利な製造方法を提供することにある。

[課題を解決するための手段]

両方の活性を有すること、更に、BHKやNR K細胞に対する細胞仲展活性が、細胞接着ドメイン。単独の場合に比べて増強されていることを 見出した。

以下、本発明を具体的に説明する。

本発明者らは、和胞伸展活性とヘバリン結合 活性を扱わ構えた新規ポリペプチドの構築及び その製造方法について研究し、ヒトドトの動物 接着ドメインとヘバリン結合ドメインが直接 はリンカーペプチドを介して結合した新規な機 他性ポリペプチドを遺伝子工学的に作製した。 この新規な機能性ポリペプチドの生物活性を調 ペた結果、細胞伸展活性とヘバリン結合活性の

pTF7021 を用いることができる。pTF7021 は FNのPro'^{23 *}-Net'^{31'} (279アミノ酸残基) を発現するプラスミドである。pTF7021 の翻訳 領域のC末端の終止コドンの直的にクローニン グサイト、例えば Ncai サイトを導入すること により、細胞接着ドメインのcDNAと他のドメインのcDNAを連結させることができる。

本発明による新規な機能性ポリペプチドの具体例の1つとしては、下記一般式 1:

C₂₊₁ + Net -) - N₂₊₁ - X … (])
(式中C₂₊₁は、ヒト F N の細胞接着ドメインのPro¹²³² - Ser¹⁵¹⁵ に相当する277 アミノ酸ペプチド改基を示し、下記式 II:

Pro The Asp Leu Arg Phe The Asn lie Gly Pro Asp The Met Arg Val The Trp Ala Pro Pro Pro Ser lie Asp Leu The Asn Phe Leu Val Arg Tyr Ser Pro Val Lys Asn Glu Glu Asp Val Ala Glu Leu Ser lie Ser Pro Ser Asp Asn Ala Val Val Leu The Asn Leu Leu Pro Gly The Glu Tyr Val Val Ser Val Ser

・ 特別平2-311498 (4)

Ser Val Tyr Glu Gla His Glu Ser Thr Pro Lau Arg Gly Arg Glo Lys Thr Gly Lau Asp Ser Pro The Gly Ile Asp Pha. Ser Asp Ile. Thr Ala Ann Ser Phe Thr Val His Trp Ile Ala Pro Arg Ala Thr 11e The Gly Tyr Arg lle Arg Bis His Pro Glu His Phe Ser Gly Arg Pro Arg. Glu Asp Arg Val Pro His Ser Aix Ann Sor lie Thr Lou Thr Ann Leu Thr Pro Gly Thr Glo Tyr Val Val Ser ite Val Ala Leu Ann Gly Are Glu Glu Ser Pro Leu Leu lie Gly Gla Gin Ser Thr Val Ser Asp Val Pro Arg Asp Lou Glu Val Val Ala Ala The Pro The Ser Lou Lou 11e Ser Trp Asp Ala Pro Ala Val Thr Val Arg Tyr Tyr Arg lle Thr Tyr Gly Glu Thr Gly Gly Asa Ser. Pro Val Gin Giu Phe Thr Val Pro Gly Ser. Lys Ser Thr Ala Thr lie Ser Gly Leu Lys Pro Gly Val Asp Tyr The 11s Thr Val Tyr Ala Val Thr Gly Arg Gly Asp Ser Pro Ala Ser Ser Lys Pro 11e Ser Ile Asn Tyr Arg

Thr Giu ile Asp Lys Pro Ser … [1] で表される配列を有し、Ilaniはヒト FNのヘパリン結合ドメインのAlaian-Thrise に相当する 271アミノ酸ペプチド技器を示し、下記式皿:

Ala lie Pro Ala Pro Thr Asp Leu Lys Phe
Thr Gin Val Thr Pro Thr Ser Leu Ser Ala
Gin Trp Thr Pro Pro Asn Val Gin Leu Thr
Gly Tyr Arg Val Arg Val Thr Pro Lys Giu
Lys Thr Gly Pro Met Lys Giu ile Asn Leu
Ala Pro Asp Ser Ser Ser Val Val Val Ser
Gly Leu Met Val Ala Thr Lys Tyr Glu Val
Ser Val Tyr Ala Leu Lys Asp Thr Leu Thr
Ser Arg Pro Ala Gin Gly Val Val Thr Thr
Leu Giu Asn Val Ser Pro Pro Arg Arg Ala
Arg Val Thr Asp Ala Thr Glu Thr Thr lie
Thr Ile Ser Trp Arg Thr Lys Thr Glu Thr
lie Thr Gly Phe Gin Val Asp Ala Val Pro
Ata Asn Gly Gin Thr Pro 11e Gin Arg Thr

で表される配列を有し、X は下記式 IV:
Asp-Glu-Lou-Pro-Glu-Leu-Val-Thr-Leu-Pro-His-Pro-Aso-Lou-His-Gly-Pro-Glu-(le-Leu-Asp-Val-Pro-Ser-Thr ... (IV)
で表されるペプチド 独芸、あるいはその一部又は全部が欠失した芸を示し、 Ketはメチオニン

段話を示し、nは1又は零の数を示す)で抜されることを特徴とする機能性ポリペプチドが挙 けられる。

ヘパリン結合ドメインについてはトリプシン、 サーモライシン、カテプシンD等によって分解 されて得られた断片が報告されており、その大 きさは、29kDから38kOに及んでいる。ドメイン の詳しい特定はなされていないが、一般的には 約90アミノ酸から成る四型類似配列を3個と、 それに続くIIcs型配列の一部を含む断片が知ら れている。本発明の前記式!に記載されている XはIIcs型配列の一郎に相当する。ヘバリン結 合括性にはILcsを必要としないが、ある値のり ンパ系の知胞の接着には、Ecs配列が必要とす る考え方もある。本発明者らはヘパリン結合ド メインの車型類似配列を3個含む断片(本発明 の前記式1に記載されている即れに相当)と、 更に四csの一部を含む断片 (式1の川ana-X) を 大馬盥で発現させ、ヘバリン結合活性及び加助 接着活性を健定した結果、両者共、ヘバリン結

ヘパリン結合ドメインをコードするcDMAは、 pLF2435 から取出すことができる。pLF2435 は、 前記plF2、plF3、plF4及びplF5から再構築され たプラスミドで、PNのヘパリン結合ドメイン をコードするcDNAを含んでいる。但し、II cs部 分に相当するcDNAは合んでいないので、Xに対 応する DNA配列は化学合成によって 研築する 必要がある。pLF2435 から必要なcDNA断片を翻 限群者で切出し、5′ 個に開始コドンを含む合 成DNAを、また、3′個には、終止コドンを 合む合成DNAをDNAリガーゼで連結した後、 適当な発現ペクターに接続することにより、Ⅱ 型類似配列が3個つらなった配列を有するペプ チドを発現するプラスミドを得ることができる (第1図参照)。すなわち第1図は、fianiを発 現するプラスミドpND101を構築するための工程 図である。

れる(第3図及び第4図参照)。 すなわち第3 図は、C₂₁₁-Net-H₂₁ を発現するプラスミド pCH101を構築するための工程図であり、第4図 は、C₂₁₁-Net-H₂₁₆ を発現するプラスミドpCN 102 を視疑するための工程図である。

前記プラスミドにおける連結邸には、 Nco!サイトに由来するメチオニン段基がリンカーとして含まれる。リンカーの有無は、本発明の効果を左右するものではないが、必要とあれば部位特異的変異の手法により、容易に除去することができる。

得られたプラスミドを大臨歯に導入し、適当な条件下に培養することにより、目的ペプチドが大陽歯内に普破される。発現の確認にはイムノブロッティングが用いられる。紅後え大陽菌の全菌体タンパク質を SBSーポリアタリルアミド電気泳動で分離した後、泳動パターンをニトロセルロース膜に移し取る。 FNの細胞接着ドメインを認識するモノクローナル抗体 (FB-10 、全価違)、及びFNのヘパリンドメインを認識

このプラスミドと、田csの一郎(X)に対応する化学合成DNAを組合せることにより、更に田csを含むペプチドを発現するプラスミドが得られる(第2図参照)。すなわち第2図は、Rassを発現するプラスミドpHD102を構築するための工程図である。

するモノクローテル抗体 (【ST-1又は 1ST-2、 ベーリンガー社) の両方で検出されるバンドが 目的のポリベプチドである。

目的ポリベブチドの精製は、例えば次のように行う。 組換え大脳 歯を L ー ブロス 等の 培地に 培養し、 集樹した後、 超音 放処理により、 歯破 砂砂 を得、 これを 遠心分離 して上病を 得る。 上済を 透析後、 DB A B イオン交換体 のカラムを 通過させ、 次いで C M イオン交換体及び / 又は へパリンー アガロース 等の アフィニティク ロマトを 行う。 以上の 投作により、 目的の ポリペプチドを 稼襲することができる。

得られたポリベプチドは、BHKやNRK期 随に対する細胞伸展活性の測定及びヘパリン結 合活性の測定に用いられる。細胞伸展活性の測 定は、例えばルオスラティ (Rroslahtii)らの 方法 [メソッズ イン エンザイモロジー (Methods in Brzymology) 、第82巻、如 603 ~831 頁 (1981)] に単じて行う。すなわち、 試料をコートした後、BSAでブロッキングし

たマイクロタイタープレートに、BHK又はN RK都政の郵資技を添加し、37でで約1時間イ ンキュペートした後、未吸着の雑胞を洗剤した 後、ホルマリン固定して、仲展した細胞の割合 を顕微鏡下に測定することにより、細胞仲屋の 強さを選定することができる。一方、ヘパリン 結合話性は、ヘパリンを結合した症体、例えば AF-ヘパリントヨパール (東ソー) のカテム に試料を吸着させ、MaClの塩濃度を上昇させて 格出させ、格出された境温度により、ヘパリン への結合能力を示すことができる。

以上の健定により、得られたポリペプチドが、 BHKやNRK細胞に対して強い細胞伸展活性 を示すと共に、ヘパリンに対しても強い親和性 を示すことが証明される。

[實施領]

以下、本発明を実施例により更に具体的に及 明するが、本発明はこれら実施例に限定されな

实施例1

-Saci 新片を回収した。この断片700 agと(1 -1) で得た5′ 個アダプター 120ngをT4 BHA リガーゼ用パッファー、0.5mM ATP 、10mM DTT 及び 2.8ユニットのT4 DMAリガーゼを含 む20μ 4 の反応被中、16℃、一夜インキュペ (1-4) Mcol - Banlil 断片の期製 ートした。反応被を65で、10分処理した後、 Wcol及び Saclで分解し、アガロースゲル 電気放動にかけ、0.52 kb の NcoI-SacI版 片約 120mgを回収した。

(1-3) Sacl - Basill断片の翼撃

上記プラスミドpLF2435 の100 μg をEcoU 109 I 及び Sacl で分解し、アガロースゲー ル電気泳動にかけ、0.52kbの断片を回収した。 この断片を、更に Ban I で分解し、アガロー スゲル電気泳動にかけ、0.27kbの Sacl-Ban ① 断片を回収した。この断片 400mgと(1-1) で得た3′銀アダプター80agをT4 DNAリガー ゼ用パッファー、0.5 mM ATP、10 mM BTT 及 び2.8 ユニットのT4 BHAリガーゼを含む20 µ1の反応被中、16℃、一夜インキュペート

FNのヘパリン結合ドメインAlaisse-Thrisss (2717:シノ 歴 技 益 、 以下 11-271 と略 称 する) をコードする cDNA 断片のクローニング (第1図

(1-1) 合成 DNAアダプターの到版

ヘパリン結合ドメインのcDNA断片をベクタ 一に接続するための5′個(額長63及び55、 第1 図参照)及び3 / 個(額長25及び33、第 1図参照)のアダプターをアプライドバイオ システムズ社の DRA合成機を用いて合成した。 各々2 4 8 の5′ 末端をリン酸化した後、ア ニーリング操作により、2 重箱とした。

(1-2) Ncol-SacI 斯片の興製

PNのH-271 をコードするcDHA断片を含む 5.9kbのプラスミドpLF2435 [パイオケミス トリー第25巻、第4936~4941頁(1986)] 100 μg をBamill 及び Sacl で分解し、アガロー スゲル電気旅動にかけ、1.2 kbの断片を回収 した。この断片を更に Haell で分解し、アガ ロースゲル電気泳動にかけ、0.46kbの .llae U

した。反応被を65℃、10分処理した後、 Bastl及び Saclで分解し、アガロースゲル 電気泳動にかけ、0.30kbの Sacl - Bamil 断 片約65mgを回収した。

(1-2) で再た Hcol-Sacl 断片 120ngと (1-3) で得た Sacl - Banill 断片 65ngをT4 BMA リガーゼ用 パッファー、0.5mM ATP 、10 mM DTT及び 2.8ユニットのT4 DNAリガーゼを 含む20μ 1 の反応故中、16℃、一個インキュ ベートした。反応抜を65℃、10分処理した後、 Baull 及び Ncol で分解し、アガロースゲル 電気泳動にかけ、0.82kbの Ncol - Banki 1 版 片約28mgを包収した。

(1-5) pUC118HTの構築

分泌型発現ペクター plNU-oaph, [ジェ ンポージャーナル、第3巻、第2437~2442頁 (1984)] I μg をBanli I 及び Sali で分解し、 アガロースゲル電気泳動にかけ、lpp ターミ ネーター配列を含む0.95kbの8am[] | -Sall m

片を回収した。この断片30ngをあらかじめBamHI及び Sallで分解して限りン酸したプラスミドpUC118N 30ngと共にT4 DNAりがーゼ用パッファー、0.5 mN ATP、10 mN DTT 及び 2.8ユニットのT4 DNAりがーゼを含む20μ & の反応被中、16で、一夜インキュペートした。反応被10μ & を用いて大脳館 18101を形質転換し、1pp ターミネーター配列をもつプラスミドを得、pUC118NTと命名した。

なお、pUC118M は、市販のpUC118ベクター 〔宝活造(株)販売〕の翻訳開始コドン部位 に Mcol サイトを導入じ、更にリボソーム結 合部位と開始コアンの距離を 8 塩基にしたも のである。

(1-6) Ncol-BamH [断片のpUC118NTへのクローーニング

(1-5) で得たプラスミド pUCLIBHT 0.1 μg を Nco I 及び Bank I で分解後、脱リン酸した。 このプラスミド 20 ngを (1-4) で得た Nco I -Bank I 断片 20 ng と共にT4 DNAリガーゼ用バ ッファー、 0.5 all ATP 、 10 all DTT 及び 2.8 ユニットの T4 DNA 9 ガーゼを含む 20 μ l の反 応 被中、 16 ℃、 一夜インキュベートした。 こ の反応被 10 μ l を大路 協 H8101の形質 転換に 使用した。

また、このブラスミドを保持する大脇路IIB 101 を8scherichia coli HB101/pHD101と表

示し、工業技術院改生物工業技術研究所に寄 託した [数工研条寄第2264号 (FBRM DP-226 4)]。

(1-8) 租換え体からのペプチドの特製

(1-7) で得た Bscherichia coli HB101/ pHD101を50μg/配のアンピシリンを添加した 5 配のレープロスを含む試験管で37℃、一夜 振とう培養した。これを 500mlの同培地を含 む 2 1 の三角フラスコに接職し、100 rpmで培 葉を続けた。 660nm の股光度が 0.3の時点で 2 mNの IPTG(イソプロピルーβーチオガラク シド)を添加し、20時間後に集闘した。関体 の一部を用いてイムノブロッティングを行っ た。すなわち、全関体タンパク質をSDS-PAGB で分離し、泳動パターンをニトロセルロース メンプランに転写した後、PNのヘパリン結 合ドメインを特異的に認識するモノクローナ ル抗体 (IST-1、セラーラブ(Sera-Lab) 社 販売〕を作用させ、次いでパーオキシダーゼ 横瀬第2抗体を作用させた。結合した第2抗

体のパーオキンダーゼ活性を4ークロロー1 ーナフトールと過酸化水素の存在下で発色さ せ、29kD付近に目的のペプチドが生産されて いることを確認した。次に、全菌体ペレット E 20aM KallPO. (pH 7.0), 1 mK BOTA, 5 mM メルトカプトエタノール、3μμ パラアミジ ノフェニルメタンスルホニルフルオライド (p-APMSF)を含む溶液に経過して、超音波処 理を行った。12000 rpm で20分遣心して、上 情 25㎡を得た。これを、20aM KaHPD。(pH 7: 0)パッファーで平衡化したCM-トョパール 650Mのカラム(15虻)に通した。同一パッ ファーで非吸着菌分を除いた後、0.15M 8aC l を含む20mM KaHPO。 (pH 7.0)パッファーで 裕出し、分面した。 辞出故のイムノブロッテ ィングを行い、目的面分を集めた。次にこの 面分を0.15M NaCl を含む20mk XallPD。(pH 7.0)パッファーで平衡化したヘパリンート ョパール 650M のカラム (80ml) に通した。

カラムを D. 2M NaCl を合む20 ml K. IIPO. (pli

诗周平2-311498 (8)

7.0) バッファーで洗浄技、20 all KalPD、(pll 1.0) バッファー中、0.2 M NaC1 から0.45M NaC1 の直線液度勾配による溶出を行い、分面した。イムノブロッティングにより目的面分を築め、脱塩、液結乾燥して、電気泳動的には単単・1.00 を Pro A 120 A E 120 A を Pro A 120 A E 12

実施例 2

FNの回cs領域の一部(Asp^{1**1}-Thr^{1**5}、25 アミノ酸技基)を含むヘバリン結合ドメイン (Ala^{1**0}-Thr^{1**5}、296 アミノ残基、以下和-296 と略称する)をコードするcDNA断片のクロ ーニング(第2 図参照)

(2-1) Ban II - Bau H 1 断片の型型

490 agをT4 DKA リガーゼ用バッファー、
0.5mM ATP 、10mM DTT及び 2.8ユニットのT4
DKA リガーゼを含む20μ Lの反応被中、16℃、
一改インキュベートした。反応被を65℃、10
分処理した後、Bamil I 及び Sac 1 で分解し、
アガロースゲル電気泳動にかけ、0.38kbの
Sac I -Bam H I 断片的 100 agを回収した。

(2-3) pHD101の Sacl-BaoHI斯片 (ベクター 斯片) の顧製

H-271 をコードするプラスミドpH0101の 1 μ8 を Sacl 及びBam#1 で分解し、脱リン酸 した後、アガロースゲル電気放動にかけ、 4.5kb の Sacl -Bam#1 ベクター断片約280 agを回収した。

(2-4) SacI-Bamili 断片とベクターの結合
(2-2)で得た0.38kbの SacI-Bamili 断片50
ngと、(2-3) で得た4.6 kbの SacI+Bamil
ベクター断片20ngをT4 DMA9 ガーゼ用バッファー、0.5mM ATP 、10mM DTT及び 2.8ユニットのT4 DMA9 ガーゼを含む20μεの反応故中、

FNの目caの CSI領域 [ジャーナル オブ セル バイオロジー (J. Cell Bio.)第103 卷、第2637~2647頁(1986)] をコードするDN A 断片を含む合成 DHA (額長77及び78、第2 図書照)をアプライドバイオシステムズ社. のDHA 合成既を用いて合成した。各々2 μg の5′末端をリン酸化した後、アニーリング 操作により、相補的な配列部分を2重額とし た。このDNA を 7 mNトリス (Tris)-||Cl(pll 7.5) . 0.1mM BDTA, 20mM NaC1 . 7 mM MaCla 、 0.1mM dATP、dGTP、dCTP、dTTP及び 2 ユニットのクレノウ酵素を含む 100μℓの 反応核中、37℃、30分インキュペートした。 70℃、5分で反応を停止した後、Banill 及び BanIIで分解し、アガロースゲル電気氷勘に かけ、0.11kbの Banll - BanH I 斯片的 400ngを 回収した。

(2-2) Sacl-Bambi 断片の調製

(2-1) で得た Bans - Bank I 断片 200mgと、(1-3) で得た 0.27kbの Sac! - Ban D 断片

16℃、一夜インキュベートした。この反応被 10 m L を大路閣HO101 の形質転換に使用した。 (2-5) 大脇園の形質転換とブラスミドの磁器

また、このプラスミドを保持する大脳関HB 101 をBscherihia coli UB101/pUD102と表示し、工業技術院数生物工業技術研究所に寄託した [数工研阅客第 10721号 (PBRM P-107 21)]。 (2-6) 租換え体からのペプチドの精製

(2-5)で得た Bscherichia coli || B101/pHD 102 を、 (1-8) と同様の方法で培養、精製し、500 配の培養被から電気体動的にほぼ単一なペプチド約 5 agを得た。 ABI社のペプチドシーケンサー 477A/120Aを用いて、本ペプチドの N末端からのアミノ 酸配列を調べたところ、目的のペプチドの N末端配列と一致した。また、カルボキシペプチダーゼ P 消化法により、C 末端は Thr であることが確認された。

P N の 知 胞 接 着 ド メ イ ン P r o ^{1 3 2 2} - S e r ^{1 3 1 5}
(277 ア ミ ノ 酸 残 基) と U - 271 と の 酸 合 タ ン パ ク 質 を コ ー ド す る c D N A 断 片 の ク ロ ー ニ ン グ (第

ク質をコードする cDNA断片のクローニング (3 図客照)

実施例3

(3-1) 報胞接着ドメインProtana-Serts 15 (277: アミノ酸残基) をコードするプラスミド の磷築

特顧昭63-31820 号明細書に記載されている超換え体プラスミド pTF7021 の翻訳領域の

(3-1) で得たプラスミド pTP7520 を Ncol 及び Ninc II で分解後、脱リン酸した。このプラスミド 50 ngを (1-2) で得た Ncol - Ninc II 断片 50 ngと共にT4 DNAリガーゼ用パッファー、0.5mN ATP、10 an BTT及び 2.8ユニットのT4 DNAリガーゼを含む 20 μ 1 の反応被中、16 で、一夜インキュベートした。この反応被10 μ 2 を用いて大腸路 HB101を形質転換し、FNの細胞接着ドメインPro'***-Ser'***(277プミノ酸残基)と H-271 が Netを介して結合した融合タンパク質(C***-Net-II***・)を発現するプラスミドを得、pCH101と命名した。

また、このプラスミドを保持する大脳歯HB 101 を Bscherichia coli UB101/pCII 101と 表示し、工業技術院数生物工業技術研究所に 寄託した [数工研菌寄第 10722号 (FBRM P-10 722))。

(3-4) pCH101からの介在配列 (ATG) の除去 (3-3)で得たプラスミド pCH101によって発 現される融合タンパク質 (Cara-Net-Hari) 終止コドンの直前に部位特異的変異の手法により、 Hcol サイトを導入したプラスミドを構築した。 pTP7021 への Hcol サイトの導入は、オリゴヌクレオチド d (pCTATTACACCA TGGATGGTTT6) を合成し、サイトーダイレクテッド ミュータジェネシス システム ミュータンー K (Site-directed mutagenesis system Mutan-K) (宝酒造 (株) 販売)を用いて行った。この Hcol サイトの導入に伴い細胞接着ドメインのC末端のGln 1514-Net1517 は Met1514-Yal 1517に置き換わっている(第 3 図参照)。 毎られたプラスミドをpTP7520 と命名した。

(3-2) pHO101の Ncol-HincI 転片の調製

(1-7) で得た租換え体プラスミド pHD101 の 1 μg を Nca I 及びHiac II で分解し、アガロースゲル電気泳動にかけ、1.77kbの Nca I -Hiac II 断片約100ag を回収した。

(3-3) pHD101の Ncol - Niac I 断片のpTF7520 へのクローニング

(3-5) 組換え体からのペプチドの特型

(3-3) で得た Bacherichia coli 110101/pCll 101 を(1-8) と同様の方法で培養し、500 配の培養関体から抽出版を得た。 PNの類胞接着ドメインを認識するモノクローナル抗体 (FN-10 、宝酒造)及び的配モノクローナル抗体(ST-1 の両方に反応する可分を(1-8) と

同様の方法で積製して15mgの複製品を得た。 本ペプチドのN末端配列は目的ペプチドの配列と一致した。また、カルボキシペプチダーゼP消化法により、C末端はThr であることを確認した。

実施例 4

FNの細胞接着ドメインPro!***-Ser!*!*
(2777ミノ酸残基)と11-296 との融合タンパク質をコードするcDHA断片のクローニング (第 4 図参照)

・(4-1) pBD102の Bcol - Hincl 新片の扇製

(2-5) で得られた組換え体プラスミドpHD 102 の 1 μg を Nco I 及びBinc I で分解し、 アガロースゲル電気泳動にかけ、1.84kbの Nco I - Hinc II 断片約100ng を回収した。

(4-2) pHO102の Ncol - NincI新片のpTF7520 へのクローニング

(3-1) で得たプラスミドpTF7520 を Nco! 及びHincⅡで分解後、脱リン酸した。このプラスミド50ngを(4-1) で得た Nco! -HincⅡ

除去を(3-4) と同様の方法で行った。その結果、抑胞接着ドメインPro'***-Ser'*'* (277 T !) で残基)とH-296 が直接結合した融合タンパク質(C ***-H * **) を発現するプラスミドを得、pCH202と命名した。

(4-4) 組換え体からのペプチドの精製 📝

(4-2) で得た Bscherichia coli || B101/pCII-102 を (3-5) と同様の方法で培養、精製し、 500 配の培養液から、電気採動的にほぼ単一 なペプチド約 6 mgを得た。 N 末端配列分析及 びC末端分析の結果は目的ペプチドのものと 一致した。

実施例 5 生物活性の選定

前紀実施例1~4で得られた各ポリペプチドを用いて細胞接着活性及びヘパリン結合活性を 測定した。

和政技者活性は、ルオスラティらの方法(メソッズ イン エンザイモロジー、第82巻、第803~831 頁(1981))に準じて胡定した。試料を悪智水、、PBS(リン酸級領化生理食塩水)

SPECIAL STATE OF STATE OF

また、このプラスミドを保持する大路歯 II B 101 を B acherichia coli II B 101/pC H 102 と表示し、工業技術院歴生物工業技術研究所に寄託した [数工研磨寄第 10723号 (FBRM P-10723)]。

(4-3) pCH102からの介在配列(ATG) の除去 (4-2) で得たプラスミドpCH102によって発

現される融合タンパク賞 (Carr-Met-Hass) の細胞接着ドメインProises-Serisis (277 アミノ酸残基) と H-296 の間には Metが付加されている。この Metに対応する配列(ATG) の

等に辞かし、96穴マイクロブレート上で碧霞的 に希釈した。4 ℃、2 時間インキュペートして、 試料をプレート上に敗着させた(50μ & /カェ ル)。 3 %BSA(牛血清アルブミン)を含む PBS 存 液 を 100 μ 12 / ウェル 加え、 37 ℃、 1 時間インキュペートしてプレートをブロックし た。PBSでプレートを洗浄技、あらかじぬダ ルペッコ (Dulbecoo's)イーグル最小栄養塔地 (DMBN)に 5 × 10° 細胞/ 配となるように無調さ せたペピーハムスター腎細胞 (BIIK-21) を100 µ ℓ / ウェル分柱し、37℃、1 時間インキュベ ートした。なお使用したBIIK-21和助は、旋結保 存した株を雑代培養後、トリプシン処理(37℃、 5分)したものを用いた。PBSでプレートを 洗浄後、3%ネルマリン路波で細胞をプレート 上に固定した。

類数観下でBHK-21和胞の伴展を観察し、仲展制度数が、n-FBの高濃度における仲展和胞数の50%となる試料の濃度 (BDs。)を求め報路接着話性の指標とした。

诗聞平2-311498 (11)

へパリン結合話性の孤定は以下のようにした。
20 ml リン酸パッファー (ph 7.0) で平衡化
した AF へパリンートョパール 650M のカラム
(1.5ml) に試料を乗せ、パッファー中のHaCl複
皮を段階的に上昇させ、裕山される塩濃度によ
りへパリンへの結合力を表した。

、以上の方法で各試料の生物活性を測定した結果を記し表に示す。

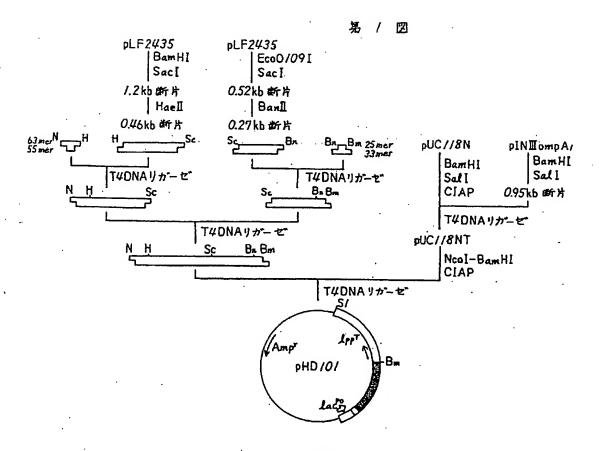
	Ħ	1	安	
式 科	in in	仲辰(1886	活性(八丈)	Aパリン 結合活性 (辞出塩凝皮、®M)
H-271		なし		300
H-296		41		300
Carr-Nat-Hami	0	. 176	·	300
Cana-Mat-Hans	. 1	084		300

[発明の効果]

以上述べてきたごとく、本発明により、知的 接着活性とヘバリン結合活性の両活性を合せ持 つ新規ポリペプチド及びその製造法が提供され る。このポリペプチドは知的とヘバランを登な どの細胞外マトリックスとの結合の仲立ちをし、 劇傷治療等に役立つ有用なタンパク質である。 4.図面の簡単な説明

第1 図は H-271 を発現するプラスミド pH0101 を構築するための工程図、第2 図は H-296 を発現するプラスミド pH0102を模築するための工程図、第3 図は C=++-Met-H=+1 を発現するプラスミド pCH101を構築するための工程図、第4 図は C=++-Met-H== を発現するプラスミド pCH102を構築するための工程図である。

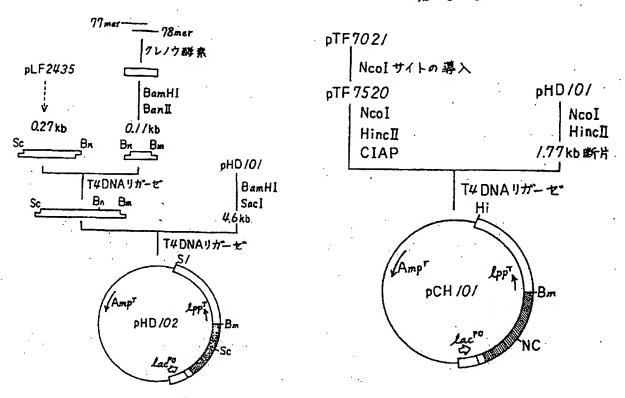
特許	田園	人	٠	賽	酒	造,株	式	会 2	Ł
ft.	趸	人		:	ф	本		宏	
	同				井	上		昭	
	同	•			吉	猫		桂	



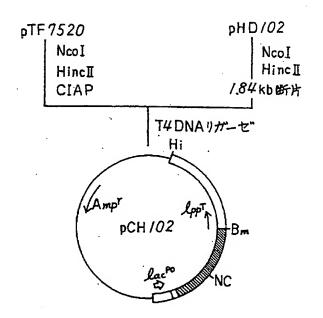
持開平2-311498 (12)

第 2 图

第 3 図



第 4 図



第1頁の続き

励Int. Cl. 3 識別記号 庁内整理番号
C 12 N 15/62 15/70
C 12 P 21/02 C 8214-4B
|| A 61 K 37/02 8615-4C
(C 12 N 1/21
C 12 R 1:19)
(C 12 P 21/02
C 12 R 1:19)

個発明 者 君塚 房 夫 **滋賀県大津市瀬田3丁目4番1号 寶**酒造株式会社中央研究所内

@発 明 者 加 藤 郁 之 進 **滋賀県大津市瀬田3丁目4番1号 寶酒造株式会社中央研 究所内**

手 続 補 正 杏 (自発)

平成1年7月4日

特許庁長官 吉田文 穀 殿

1.事件の表示 平成1年特許額第131453号 2.発明の名称 機能性ポリペプチド

3. 補正をする者

/特許万 1. 7. 4

事件との関係 特許出願人

住 所 京都府京都市伏見区竹中町609番地

名称 賽 酒 造 株 式 会 社

大表者 田 辺 :

4.代 理 人

住 所 東京都港区西新橋 3 丁目 15番 8 号 西新編中央ビル302号 電話(437)3467。

氏名 弁理士(7850) 中

中本

(ほか2名)

5.補正命令の日付 自発補正

6. 横正の対象

方式 図

(1) 明報者の発明の詳細な説明の機

7. 補正の内容

明知書の発明の詳細な説明の欄を下記のとおり 対話でする。

- (1) 明細書第18頁1~2行の「(IST・・・ が一社)」を下記のとおり補正する。
 - 「 [[ST-1 又は[ST-2 、セラ- ラブ (Sera-Lab) 社販売] 」
- (2) 同第25頁下から3~2行の「(IST-1・
 - ・・・販売〕」を下記のとおり補正する。
 - ` 「 (1ST-1 、セラ- ラブ社販売) 」
- (3) 同第29頁下から4行の「Sac!+BamHi」 を「Sac!-BamHi」と補正する。
- (4) 同第30頁下から4行の「Escherihia」を「Escherichia」と補正する。

特周平2-311498 (14)

朝鮮書の発明の辞報な説明の確を下記のとお

(1) 明細書館33頁下から5~4行の「容託・

・・2)】。」なる全文を下記のとおり補正

「審託した【微工研集審第2799号(PERN BP

図 岡第36買下から8~7行の「託し・・・・・3)〕。」なる全文を下記のとおり補正

「託した「数工研を客第2800号(PBRN BP ー

- 2 7 9 9)) . J

2800)), 1

手 続 補 正 晝 (自発)

平成2年4月12日

特許庁長官 吉田文 製 職

1.事件の表示 平成1年特許職第131453号

2.発明の名称 機能性ポリペプチド

3.補正をする者

事件との関係 特許出願人

住 所 京都府京都市伏見区竹中町609番地

名称 實 酒 造 株 式 会 社

代表者 田 辺

4代理人

住所 東京都格区西新模 3 丁目 15番 8 号

西新属中央ビル302号 電話(437)3467

(ほか2名)

5. 補正命令の日付 自発補正

6.補正の対象

(1) 明細表の発明の辞細な授明の種

6. 旧受託番号

7. 補正の内容

り被正する。

する。

する。

数工薪頭寄第10722号

7. 新容託機関の名称:

工業技術裝散生物工業技術研究所

8.新妥託番号

数工研集密第2799号

9. 添付書類の目録

(1) 新受託番号を証明する書面 1 i

受託署号変更届

平成2年4月12日

特許庁長官 吉田文教 費

1.事件の表示 平成1年幹許顧第131453号

2.発明の名称 機能性ポリペプチャ/・・・

3.手鎖をした者

事件との関係 特許出願人

住 所 京都府京都市伏見区竹中町 6 0 9 番地

名称 賽 置 避 株 式 会 社

代表者 田 辺 哲

4代 理 人

●105 住 所 東京都格区西新橋 3 丁目 15 巻 8 号

西新橋中央ビル302号

電話 (437) 3467

氏 名 杂夏十(7850)

中本

2

2. 4.12

- 3.41(1000) + 2

(ほか2名)

5. 旧客託機関の名称

工業技術院數生物工業技術研究所

受託器号度更属

平成2年4月12日

特許庁長官 吉田文 穀 穀

1.事件の表示 平成1年特許額第131453号

2.発明の名称 機能性ポリペプチド

3.手続をした者

事件との関係 特許出額人

住 所 京都府京都市伏見区竹中町609番地

名。称 **变 活 造 株 式 会 社**

4.代 理 人 45105 住 所 東京都港区西新撰 3 丁目 15 套 8 号

西新橋中央ビル302号

電話 (437) 3467

氏 名 弁理士(7850)

(ほか2名)

5. 旧客託設閣の名称

工架技術院微生物工業技術研究所

6. 旧驳託署号

做工研阅客第10723号

7.新容託機関の名称

工業技術院微生物工業技術研究所

8. 新曼托蒂号

数工研集寄第2800号

9. 添付書類の自録

(1) 新受託番号を証明する書面

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載 【部門区分】第3部門第2区分 【発行日】平成6年(1994)12月6日

【公開番号】特開平2-311498

【公開日】平成2年(1990)12月27日

【年通号数】公開特許公報2-3115

【出願番号】特願平1-131453

【国際特許分類第5版】

C07K 13/00 ZNA 8318-4H

C12N 1/21

7236-4B

15/62

15/70

C12P 21/02

C 8214-4B

// A61K 37/02

8314-4C

(C12N 1/21

C12R 1:19)

(C12P 21/02

C12R 1:19)

[FI]

C12N 15/00

A 9050-4B

統 描 正 書 (自発)

平成6年6月30日

1.事件の要示 平成1年特許順第131453号

2 強明の名称 機能性ポリペプチド

3.装正をする者

事件との関係 特許出版人

住 所 京都府京都市公见区竹中町809番地

贾 超 选 株 式 会 社

代亚省 大 室 久

(代数者契页)

4.代 忠 人

〒105

住 所 平京都港区西新镇3丁目1588号 西新橋中央ビル302号 電話(3437)3467巻

弁理士(7850) 中 本

(ほか2名)



5.福正命令の日付 自発制正

6.被正により増加する請求項の数 1

7. 植正の対象

- (1) 明細書の特許第求の範囲の報
- (2) 明知啓の発明の詳細な説明の間

E.相正の内容

- (1) 明期書の特許頭求の範囲の間を別版のとおり競正する。
- (2) 明初春の英明の詳細な説明の描を下記のとおり拍正する。
 - ア、明知番郭5貫下から3行の1を含む・・・その」なる金文

を下記のとおり補正する。

「を含有する新規な機能性ポリペプチド、並びにそれらを コードする遺伝子、及びその遺伝子を頂いた遺伝子工学的な」

イ、同歌8頁5~9行の「プチド・・・設杵」なる全文を下記 のとおり補正する。

「ブチドに関し、第2の発明は、第1の発明の新規な機能 性ポリペプチドをコードする遺伝子に関する。木苑明の節3 の範別は、前記ポリペプチドをコードする遺伝子を含有せし めた机模式体プラスミドに関し、また第4の基明は、前記組 換え体プラスミドを導入せしめた形質転換体に関し、更に餌 5 の発明は、前記影質転換体を培養し、抜併;

ウ、阿第39頁下から2行の「つ新・・・され」なる金文を下 記のとおり祖正する。

「つ新規ポリペプチド、並びにそれらをコードする遺伝子、 及びその遺伝子を用いた遺伝子工学的な製造方法が提供され」

2.特許請求の範囲

- I. ヒトフイプロネクチンの細胞接分ドメインと、ヘパリン結合 ドメインが、直接又はリンカーペプチドを介して結合している ことを対数とする機能性ポリペプチド。
- 2 下起一般式[:

Pro The Asp Leu Arg Phe The Asp 11e Gly Pro Asp The Net Arg Val The Trp Ala Pro Pro Pro Ser IIo Asp Lou Thr Ass Pho Lou Val Arg Tyr Ser Pro Val Lys Asn Glu Glu Asp Val Ala Clu Lou Ser Ile Ser Pro Ser Asp Aso Ala Val Val Lou The Aso Lou Lou Pro Gly The Glu Tyr Yal Yal Ser Wal Ser Ser Val Tyr Glu Gla His Glu Ser The Pro Lou Arg Gly Arg Gin Lyn The Gly Len Asp Ser fro The Gly Ito Asp the Ser Asp Ite The Ala Asa Ser Phe The Val His Try Ite Ala Pro Arg Ala The 110 The Gly Tyr Arg tto Arg His His Pro Glu His Phe Sec Gly Arg Pro Arg Giu Amp Arg Val Pro Him Ser Are Aso Ser He The Leu The Aso Leu The Pre Gly. The Glu Tyr Val. Val Sec [10 Val . Ala Leu Asn Gly Arg Gle Gle Ser Pro Lee tou its Gly Gin Gin Ser Thr Yal Ser Asp

Lie Lys Pro Asp Val Arg Scr Tyr Thr ite
Thr Gly Len Gin Pro Gly Thr Asp Tyr Lys
Lie Tyr Lou Tyr Thr Len Asn Acp Acp Ala
Arg Scr Scr Pro Val Val lie Acp Ala Scr
Thr Ala lie Asp Ala Pro Scr Aco Lou Arg
Phe Len Ala Thr Thr Pro Asp Scr Len Leu
Val Scr Trp Gin Pro Pro Arg Ala Arg Lie
Thr Gly Tyr Lie lie Lys Tyr Gin Lyg Pro
Gly Scr Pro Pro Arg Gin Val Val Pru Arg
Pro Acg Pro Gly Val Thr Gin Ala Thr lie
Thr Giy Len Gin Pro Gly Thr Gin Tyr Thr
Lys Scr Gin Pro Lou Lie Gly Arg Lys Lys
Thr Wal Lie Alg Len Lys Asp Asp Gin
Lys Scr Gin Pro Lou Lie Gly Arg Lys Lys

で吹きれる配列を育し、Xは下記文で: Asp-Glu-Leu-Pro-Gla-Leu-Yal-Thr-Leu-Pro-Kis-Pro-Asa-Leu-His-Gly-Pro-Glu-Hu-Leu-Asp-Val-Pro-Sor-Thr … (1Y)

で扱されるペプチド政雄、あるいはその一部又は金部が欠失した数を示し、Metはメチオニン政路を示し、nは1又はその数を示す)で扱されることを特徴とする機能性ポリペプチド。

- 1. 請求項し記載の機能性ポリペプチドをコードする遺伝子。
- 動水項3型磁の機能性ポリペプチドをコードする<u>遺伝子を含</u> 有せしめた紅換え体プラスミド。
- 5. 財取項金配数の組拠え体プラスミドを導入せしめた形質転換体。
- 6. 請求項
 5. 数求項
 5. 数格要額より請求項
 1.

Val Pro Arg Asp Loo Gio Val Val Ala Ala
The Pro The See Lee Lou lio See Tep Asp
Ala Pro Ala Val The Val Arg Tyr Tyr Arg
llo The Tyr Giy Gio The Giy Giy Asn See
Pro Val Gio Gio Phe The Val Pro Giy Soe
Lys See The Ala The lio See Giy Loo Lys
Pro Giy Val Asp Tyr The lio The Val Tyr
Ala Val The Giy Arg Giy Aup See Pro Ala
See See Lys Pro lio See lio Asp Tyr Arg
The Giu lio Asp Lyn Pro See [H]

で設される配料を打し、H.,, はヒトフィブロネクチンのヘパリン結合ドメインの人la***ーThr***に和当する271アミノ酸ペプチド及弦を示し、下配式工:

The Gla Val The Pro The See Leu Lys Phe Gla Val The Pro The See Leu See Ala Gla Trep The Pro Pro Ann Val Gla Leu The Gly Tye Arg Val Arg Val The Pro Lys Glu Lya The Gly Pro Not Lya Glu Lle Asa Lou Ala Pro Asp See See See Val Val Val Val See Gly Leu Not Val Ala The Lys Tye Glu Val See Val Tye Glu The See Arg Pro Ala Cla Cly Val Val The The Leu Glu Asa Val See Pro Pro Arg Arg Ala Arg Val The Asp Ala The Glu The Glu The Asp The Lya Tye Glu The Lie Glu Asa Val See Pro Pro Arg Arg Ala The I'e See Tre Arg The Lys The Glu The I'e See Tre Arg The Lys The Glu The I'e The Gly Pho Gla Val Aup Ala Val Pro Ala Asa Gly Gla The Pro I lo Gla Acg The

記載の機能性ポリペプチドを採取することを特徴とする機能性 ポリペプチドの製造方法。

This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning Operations and is not part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:					
BLACK BORDERS					
☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES					
☐ FADED TEXT OR DRAWING					
☐ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING					
☐ SKEWED/SLANTED IMAGES					
☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS					
☐ GRAY SCALE DOCUMENTS					
☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT					
☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY					
□ other:					

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.